



活動紹介 etc



太田市新田身体障害者団体

代表者：小澤 利巳

22万都市太田では、平成25年度において約6,900の方が身体障害者手帳を所持しています。太田市新田身体障害者団体では現在40～80代の173名の方が会員として登録し、お互い痛みを持った者同士、気楽に心を開いて互いの悩みを訴えながらも、和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。



組織としては、木崎地区・綿打地区・生品地区に分かれ、それぞれ会長の小澤さん、副会長の齊藤さん・津久井さんを先頭に、16名の代表幹事会・顧問、35名の役員・顧問から構成され、毎月定例会を開いています。また、当団体は平成17年3月、1市3町の合併により誕生した、7団体から構成される太田市身体障害者団体連絡協議会に所属しています。

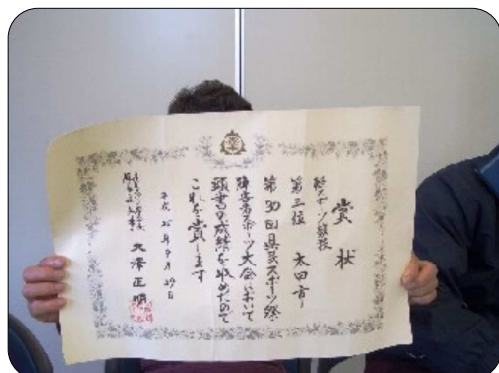
当団体は年間行事として、4月の総会から日帰り旅行や1泊の会員研修旅行・役員研修旅行、グラウンドゴルフ大会やカラオケの集い、その他上部団体主催の行事もあり、毎月楽しく活動しています。また、有志によるグラウンドゴルフやカラオケ愛好会も月2回実施しています。



過日行われた、第30回県民スポーツ祭障害者スポーツ大会では、軽スポーツ競技に出場し3位に入賞しました。

当団体では、年間を通して入会者を募集しています。年会費は500円で入会の条件は、身体障害者手帳を所持している方(18歳以上)及び入会するにあたり介護の必要な方の介護者(賛助会員)です。新規に障害者手帳を取得された方には、今後のライフワークにおいて不安なこと一杯であろうと思います。時が過ぎて心穏やかになった頃に入会の検討をしてみませんか。もちろん既に手帳をお持ちの方の入会もお待ちしています。

入会への問い合わせは太田市社会福祉協議会 西部支所 (0276-57-2616)まで (齊藤)



ボランティア情報誌

ぼらびと

『ぼらびと』・・・市民活動・ボランティア活動している人びと

Vol.23 2013年12月

年6回/4・6・8・10・12・2月発行

発行：太田市社会福祉協議会 / 太田市社会福祉協議会登録広報ボランティア
所在地：太田市浜町2-7 太田市福祉会館内
電話：0276-46-6208 発行部数：550部



「第9回」ふれあい祭り開催!



新田ボランティア連絡協議会主催による、第9回ふれあい祭りが10月20日(日)、所属23団体参加のもと小雨降る太田市新田福祉総合センターで開催されました。開会式は秋桜太鼓の皆さんによる威勢の良い演奏で開始。新田地区社会福祉協議会熊沢勉会長・太田市市長高橋輝明会長・新田ボラ連協秋葉恵子会長の挨拶を挟み、その後、太鼓の力強い演奏があり、あいにくの雨雲を吹き飛ばすような元気のよい熱演により始まりました。



(掛川)

三陸の海産物販売により東北を支援するなど、各ボランティア団体の工夫された出店と一般参加のフリーマーケットのテントが並び雰囲気盛りだくさん、参加者に楽しんでいただきました。芸能発表では、生品モリハナ会によるフラダンス、手話サークルさくらの会による手話コーラス、手品サークルしゃぼん玉による南京玉すだれ、だんべい踊り、歌などが次々披露され会場を盛り上げました。

代表の川岸志津江さんにお話を伺いました。会の名称は旧尾島町の花が「サルビア」だったので、サルビアの会として平成6年6月に発足し、活動を開始してから来年で20年目を迎えます。活動は毎週水曜日の7時から定例会を開き、毎回20名前後の人が参加して手話を学び実践に備えています。指文字、顔の表情、口の動き、腕と手を使い身振り手振りで相手に伝えたいことを、全身を使って練習します。講師の方々の協力を得て、サルビアの会ではテキストを独自に手作りしています。

主な行事として、毎月尾島地区内の保育園を訪問し、手話で絵本の読み聞かせの会を開催しています。園児達が絵本と手話の動きを真剣に見て喜んでる姿が目にと感動し、励みになるそうです。また、ろうあ者の方々と親睦・交流を深めるためにグラウンドゴルフ大会を行っています。大会の特別ルールとして言葉を使わず全員が手話だけで行います。現在、サークルで活動している会員は25名いますが、最近では10代の若い人達も手話のボランティア活動に参加しています。今後もろうあ者の方々と交流を深めて、楽しい生活が送れるよう活動していきたいと話されていました。

今回は「カトレア会」木村トシエさんにバトンタッチします。

(名取)



手話サークルサルビアの会 (第23回 川岸 志津江さん)





人とひとの輪がつながる「ふれあい・いきいきサロン」

11月28日(木)太田市社会教育総合センターで「ふれあい・いきいきサロン研修会～サロンをもっと楽しむために～」が開催されました。同サロンは核家族化が進み、地域の人々の関係が希薄になりつつある現在、地域で手を差し伸べていこうとする活動です。主に保育園や幼稚園に入る前の親と子が集まる子育てサロン、デイサービスに通うほどではない一人で暮らしている高齢者を対象にしたサロンなどがあります。

サロンは平成8年全国社会福祉協議会でスタートし、県社会福祉協議会へと広がり、現在、年間2,050件のサロンが県内各地域で開かれているそうです。運営は地域の民生委員児童委員、主任児童委員さんが主になって活動しているそうです。県内5ブロックの一つ、東部

ブロックの研修には258人の参加者がより充実したサロン運営のために集まりました。

第1部は桐生市のふれあい・子育てサロン「こそだて子屋」の運営に10年関わっている同市民生委員児童委員協議会・子ども未来委員会の小島志津代さんが実践事例を発表してくれました。子育て

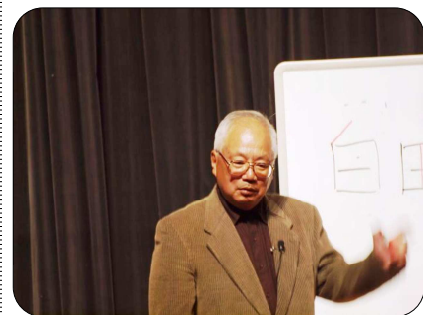
中の親が育児の悩みを抱え込むことなく楽しく子育てが出来るよう、遊びや情報交換による家庭的な仲間づくりの場を提供しているそうです。奇数月の午前中、福祉センターの他、新緑や紅葉の時期には公園やお寺でも開催しています。手遊びや風車作りなど親子で楽しめるイベントを38人の委員さんが交代で運営に関わっています。立ち上げてから現在までに延べ2,421人の親子が参加したそうです。これからも子育て支援日本一を目指して頑張るそうです。

次に高齢者サロン「みちくさの広場」について邑楽町民生委員児童委員の飯塚香さんが発表しました。いきいきサロンは元気で自立できる

高齢者の生きがいと健康づくり事業の一環として始まりました。月2回の開催で、ワゴン車やバスが送迎し、歌や合唱、折り紙や軽体操、昼食などを楽しみます。一人暮らしの人は参加することで友達もでき、ゲームや時にはお風呂に入ったりして、一日を楽しく過ごすことができるそうです。

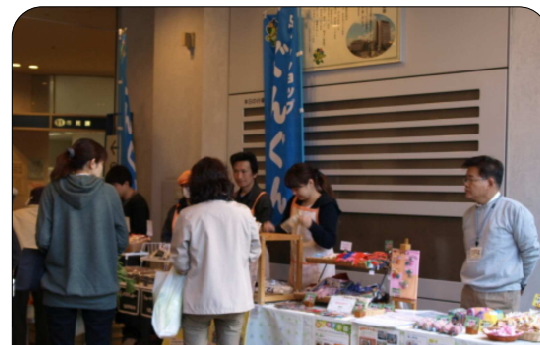
第2部は(一社)東京都レクリエーション協会理事の飯田弘さんによるレクリエーション実技。手遊びや、頭の体操、漢字や数字を使ったゲームなどを一緒にを行い、会場の中は笑いの渦がいっぱい。参加した皆さんは、研修で得た成果をもとに、より充実した楽しいサロン運営をして下さることでしょ。

地域社会の絆が薄れていく中、孤立しがちな子育て中の母親や、一人暮らしの高齢者のためのこんな素敵な集いの機会「ふれあいサロン、いきいきサロン」の存在を知ってほっとしました。そして、よりよい運営のために真摯に研修を受けている参加者の方々にも頭が下がりました。こうやって人とひとがつながりあえる地域が成り立っていけることを再確認させてもらった良い機会でした。(栗田)



ふくしショップ「ぐんぐん」毎月開催します!

ふくしショップ「ぐんぐん」は毎月第2木曜日10時～13時(売切れ次第終了の予定)に太田市役所1階市民ロビーにおいて開催しています。市福祉こども部障がい福祉課が販売の機会を増やし、少しでも売上に貢献できればと企画し、平成25年4月より市内障がい者施設・団体に呼びかけ出店を募集しています。



お味噌・クッキー・マフラー



新鮮野菜 白菜・キャベツ



手打ち蕎麦・おまんじゅう



大根・ネギ・パンジー苗も

訪問した11月14日(木)は「社会福祉法人福晃会 ありさんち」「社会福祉法人 麦の家」「社会福祉法人太田松翠会 かなやま学園」「社会福祉法人杜の舎・ワークショップありす」「NPO法人 ガイア」「NPO法人糧 耕人舎」の、6団体が出店しておりました。

出店内容は様々で、手打ち蕎麦・かりんとう・クッキー・マフラー・旬の野菜・パンジー苗などの商品が売られており、リピーターの人や市役所を訪れた人で賑わっていました。出店された関係者は「普段は露天で販売する事もあるので、この場所は非常にありがたい。販売が伸ばせれば還元も多くなり、みんなも喜びます。また、他の団体の方ともふれあいができ、情報交換が出来るのもいい事です。」と話してくれました。

障がい福祉課の担当者は「まだ今年始めたばかりで知らない人も多く、どんどんPRして、多くの方に利用して頂ければ」と・・・多くの方が来場してくれる事を期待しています。

皆さんも1度、足を運んでみてください。(笠原)